

広島文化学園大学 教育内容に関するアンケート調査 結果報告

令和4年3月 14 日

教学支援センター

1 調査目的

在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及び養成しようとする人材像に照らして、卒業生が、本学の教育内容等についてどのように評価しているのか等の調査を行い、結果を本学の教育改革にフィードバックすることにより、更なる改善に資する。

2 調査期間

令和3年 11 月

3 調査対象

卒業生(平成 31 年 3 月卒業生)

4 調査方法

自記式の調査用紙(無記名式)

5 回収率

大学教育内容アンケート調査の配布数と回収率

看護	子ども	音楽	合計	宛名不明	回答数	(回答率)
131	76	32	239	20	30	14.0%

6 アンケート調査内容

A あなた自身について伺います

(1) 卒業時の所属学部・学科

- | | |
|--------------|------|
| ① 看護学部 看護学科 | 15 人 |
| ② 学芸学部 子ども学科 | 9 人 |
| ③ 学芸学部 音楽学科 | 6 人 |

(2) 性別

- ①男性 9 人 ②女性 21 人

(3) 現在の勤務先の業種

- | | | | |
|-------------|-----|------------|------|
| ① 教育学習支援業 | 5 人 | ② 医療・福祉 | 14 人 |
| ③ 卸売業・小売業 | 1 人 | ④ 金融業・保険業 | 0 人 |
| ⑤ 建設業・不動産業 | 0 人 | ⑥ サービス業 | 5 人 |
| ⑦ 製造業 | 1 人 | ⑧ 農業・漁業・林業 | 0 人 |
| ⑨ その他(公務員等) | 4 人 | | |

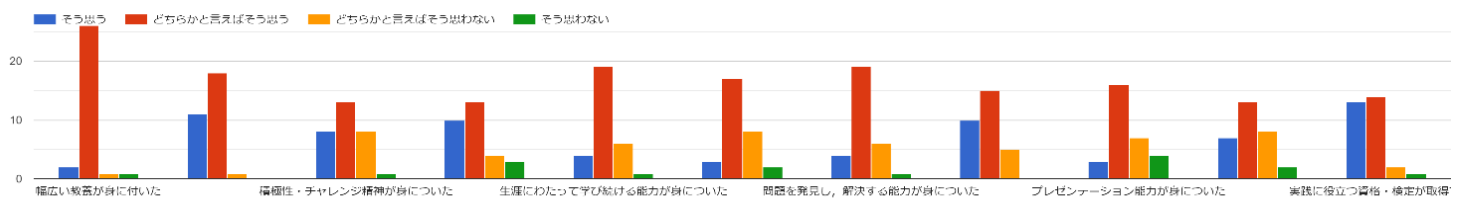
7 調査結果

B 本学の教育内容について伺います

(1) 本学での授業や活動を通して、どのような力が身につきましたかお尋ねします

- 1-1 幅広い教養が身についた
- 1-2 専門的知識とその応用力が身についた
- 1-3 積極性・チャレンジ精神が身についた
- 1-4 豊かな人間性が育まれた
- 1-5 生涯にわたって学び続ける能力が身についた
- 1-6 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力が身についた
- 1-7 問題を発見し、解決する能力が身についた
- 1-8 コミュニケーション能力が身についた
- 1-9 プレゼンテーション能力が身についた
- 1-10 組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力が身についた
- 1-11 実践に役立つ資格・検定が取得できた

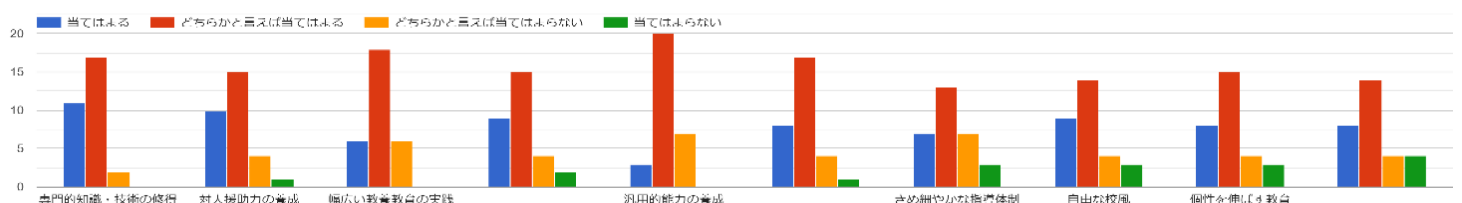
本学での授業や活動を通して、どのような力が身につきましたかお尋ねします



(2) 本学は次のようなことを教育の特徴としていますが、これらが卒業後に役立っていますかお尋ねします

- 2-1 専門的知識・技術の修得
- 2-2 対人援助力の養成
- 2-3 幅広い教養教育の実践
- 2-4 実習等に基づく実践的な教育
- 2-5 汎用的能力の養成
- 2-6 コミュニケーション能力の涵養
- 2-7 きめ細やかな指導体制
- 2-8 自由な校風
- 2-9 個性を伸ばす教育
- 2-10 実社会で通用する知識・技術の養成

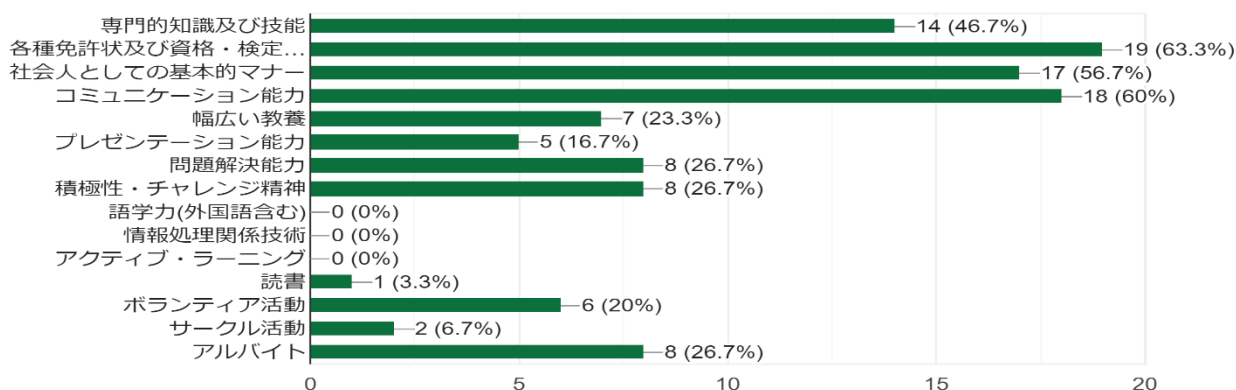
本学は次のようなことを教育の特徴としていますが、これらが卒業後に役立っているかお尋ねします



C 就職・キャリア支援について伺います

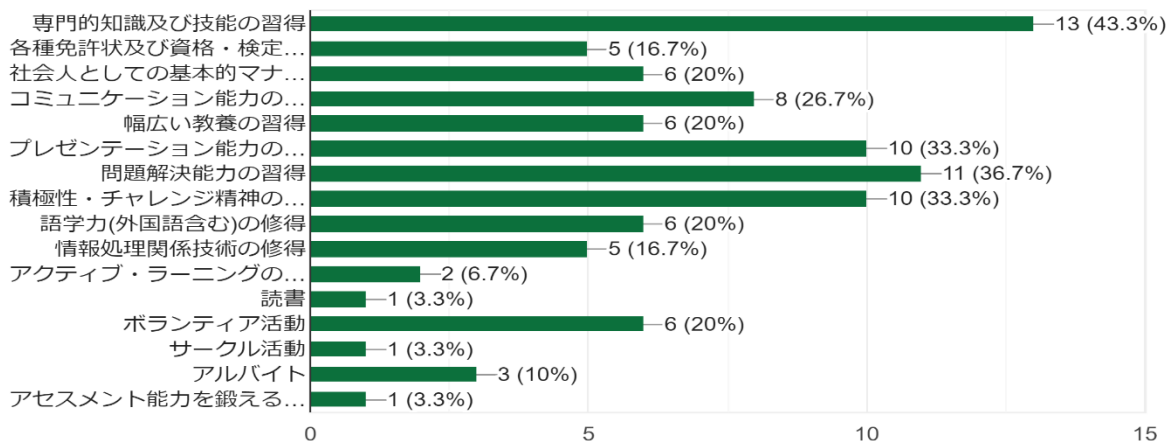
(1) 在学中に学んだことや経験したことが、就職後に役立っていると思う事は何ですか

在学中に学んだことや経験したことが、就職後に役...すか。当てはまるものすべてを選んでください。
30件の回答



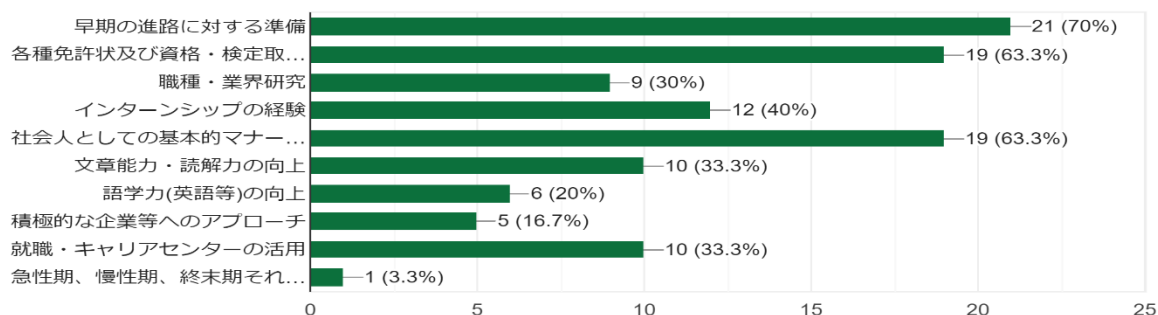
(2) 就職後、「在学中にもっと積極的に取り組んでおけばよかった」と思う事はなんですか

2.就職後、「在学中にもっと積極的に取り組んで...ですか。当てはまるものすべてを選んでください。
30件の回答



(3) 在学生に対し、自分の進路を決めるとき、在学中にやっておくとよいと思うことは何ですか

3.在学生に対し、自分の進路を決めるとき、在学...ですか。当てはまるものすべてを選んでください。
30件の回答



8 学科別 結果と分析

看護学科	<p>本学での学びや学部の教育の特徴については、ほとんどの卒業生が、「力が身に付いた」「卒業役に立っている」と答えていた。本学の教育が対人援助、看護実践に直接つながる学修の場であることを実感できている。一方、唯一回答が半数以下であった『柔軟な発想や豊かな創造力・構想力が身についた』については、現在プロジェクト学修を展開しており、さらにチーム学修の中で考えを発展させていく学修機会を増やしていく。就職・キャリア支援については、各学年のガイダンスで毎回実施している、進路やマナーについての内容を具体的に就活スケジュールに反映させ、実行できるように指導を継続していくことが重要となる。マナーについては、学生生活の中でより実践活用を増やし、習慣化できるよう、継続的に指導的な関わりを通して、マナーを身につける動機づけの体制を整備強化していく。</p>
子ども学科	<p>子ども学科は、令和元年度の「子ども学科改革プロジェクト会議」の提言を受け、令和2年度から、教員一人一人の可能性の発揮、組織力の発揮、学生の資質能力の向上など、学科改革に取り組んできた。特に、学生の資質能力の向上については、目指す学生像（「独立自尊」「克己復礼」「世のため人のためにというマインド」「自靖自献」）の浸透、人間力・学力・専門力・就職力からなる「自己実現力」の向上に取り組んできた。</p> <p>「身についた力」として「豊かな人間性」「コミュニケーション能力」「統率力・リーダーシップ能力」「積極性・チャレンジ精神」、「就職後に役に立っていると思うこと」として「コミュニケーション能力」「積極性・チャレンジ精神」「社会人としての基本的マナー」が高得点であることから、本学科の取組により一定の成果が期待できるものと考えられる。</p> <p>しかし、その一方で、余り身につけていないと思う力、役立っていると思っていないこと、もっと積極的に取り組んでおけばよかったこととして、①「幅広い教養」、「汎用的能力」「実社会で通用する知識・技術」「専門的知識及び技能」「プレゼンテーション能力」「情報処理関係技術」「問題解決能力」「文章能力・読解力」「語学力」、③「各種免許状及び資格・検定取得等」「早期の進路に対する準備」、そして、最も多かったものとして④「社会人としての基本的なマナー」の項目が挙げられている。このことから、今後は、こうしたニーズに応えることができるよう、人間力の向上に係る取組を継続しつつも、学力・専門力・就職力の向上に向けて、教養教育、専門教育の改善、授業力の向上に力をシフトし、より具体的に、また、スピード感をもって取り組む必要があると考える。</p>
音楽学科	<p>調査に対して回答率が低く、合計6名の回答では、学科としての傾向をとらえるのは難しい。アンケート調査実施以前に、卒業後も大学、学科としてのキャリア支援を継続する体制、卒業生が気軽に相談できる窓口、卒業生にも学びを提供できる機会などが必要であると考える。</p> <p>音楽学科では、定期演奏会、公開講座、専任・非常勤講師による門下生発表会、在学生と卒業生が協力し運営するアンサンブルコンサートなど数多く開催し、その結果、卒業生に、教員、在学生との交流を深める多くの機会を提供することができる環境である。ただ、コロナ禍であるこの数年、卒業生がキャンパス立入禁止となり、演奏会も中止が続いている状況である。コロナ禍が落ち着いた際には、学科の教育体制の強化や充実を考慮したり、キ</p>

キャリアセンターとのさらなる連携を図ったりすることで、卒業生、在校生、保護者と円滑に対応できるように取り組む。

また、以下の項目で否定的な意見も含まれている。

特に、「幅広い教養が身に付いた」「豊かな人間性が育まれた」

「プレゼンテーション能力が身に付いた」「対人援助の養成」

また、次の3点については6名中2名が否定的であることは真摯に受け止め、今後の在学生へのサポート強化に役立てたい。

●実習などに基づく実践的な教育

→実習に関わる授業内容の見直し。授業評価アンケートなど、学生からの意見を受けとめ、刷新した内容にする。

●きめ細やかな指導体制

→チューター、レッスン担当者、学生相談、と連携をする

●自由な校風

→カリキュラムの見直しを継続する。